

2023 平和行動 in 根室「2023 平和ノサップ集会」

主催者代表 挨拶

連合「2023 平和ノサップ集会」へ、全国各地からのご参加の皆さん、大変お疲れ様です。

連合事務局長の清水です。本集会の開催にあたり、主催者を代表して挨拶を申し上げます。

最初に、本日はご多用のところ、ご来賓としてご臨席賜りました、北海道北方領土対策根室地域本部 本部長の岡嶋秀典様、根室市長の石垣雅敏様、北方領土問題対策協会 理事長の山本茂樹様、北方領土返還要求運動連絡協議会 事務局長の児玉泰子様、改めて皆様に感謝を申し上げます。

誠にありがとうございます。

さて、私たちが暮らし、働き、そして労働運動に取り組む上で、「平和で安心な社会」は絶対に欠かすことができません。

私たちは、1989 年、「平和、幸せ、道ひらく」をスローガンに掲げて、連合を結成いたしました。

昔も今も、そしてこれから先も、平和を求め、平和を守ることは、私たち連合が、労働運動に取り組む上での大きな柱となっています。

しかし、昨年 2 月、ロシアがウクライナへの軍事侵略を開始し、私たちは皆、大きな衝撃を受け、そして平和の尊さを改めて痛感させられました。

ロシアの隣国である私たち日本国民、さらにロシアに近接している北海道の皆様にとっては、決してひとごとではありません。

ロシアは、日本政府がウクライナ侵略に対する制裁措置を発動したことに反発し、日本との平和条約の締結交渉を中断すると発表しました。また、北方領土問題解決のための環境づくりを目的とする「北方四島ビザなし交流」や共同経済活動に関する協議なども、一方的に協定破棄や中断を表明しました。

これら一連の動きは、これまで日露平和条約締結に関わってきた両国関係者の努力を蔑ろにするにとどまらず、両国の関係を 1956 年の日ソ共同宣言締結にもとづく国交回復以降、最悪の状況に貶めるものであると言わざるをえません。

今、改めて宣言します。平和なくして、私たちの暮らしも、労働運動もありません。

私たちが置かれている状況は非常に厳しい状況がある。その厳しさとともに、北方四島の一括返還と日露平和条約締結に向けた粘り強い取り組みを通じて、北方領土問題を解決し、真の意味での戦後を迎える必要があると思います。

その想いと決意を、本日お集まりいただいた皆様とともに、改めて分かち合いたいと思います。

本日の平和集会に先立ち、昨日は、根室市内の 3 ヲ所に分かれて、「北方四島学習会」を開催し、私も参加をいたしました。

第一線の学識経験者をお招きしての講演では、これまでの歴史や現在の国際情勢が北方領土問題にもたらす影響などについて触れられました。

また、元島民の方からは、かつての北方四島での暮らし、ふるさとと、北方四島に寄せる想い、切実な想いが語られました。

皆様にとっても、北方領土問題の実相について、様々な点から学び、知る機会になったものと思います。

貴重なお話をいただいた講師の皆様、この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。

ありがとうございました。

そして、北方領土のうち、ここ納沙布岬から最も近い「貝殻島」までは、距離にして、わずか 3.7 キロです。その中間地点に日露の暫定国境線があります。最近では、貝殻島の灯台にロシアが自国の国旗を掲げたり、外壁の塗装を一方的に行うなど、実行支配を誇示する姿勢を強めています。まさに目と鼻の先であるにも関わらず、今は、遠い遠い場所となってしまっています。

皆さんも、既にこの納沙布岬から北方四島を眺めていただいたかもしれません。改めてその「近さ」が実感できるはずです。集会後、もう一度、納沙布岬から北方四島を眺めてみてください。

しかし、元島民の方々は、ふるさとに、戻りたくても戻れない。自由に訪れることもできず、78 年が経過してしまったのです。

元島民の方々の平均年齢は 87 歳を超えました。残された時間は決して長くはありません。

日本政府には、この現実を重く受け止め、日露関係の改善、そして、その先にある 1 日も早い北方領土問題の解決に向けて、粘り強い外交努力を求めます。

今は、世界が、平和への歩みを続けることができるか、その分水嶺だといえます。世界の恒久平和への道は容易ではありませんが、単なる理想や夢で終わらせてはなりません。それは私たちの世代が達成しなければならない使命であり、次世代への責任です。

本日お集まりの皆さんには、今回の「2023 平和行動 in 根室」に参加されて、見たこと、聞いたこと、知ったことを、家庭や職場や地域に持ち帰り、ともに平和運動の輪を広げていただきたいと思います。

私は千葉県出身ですが、北方四島がその千葉県と面積がほぼ同じであることを今回初めて知りました。そのことを千葉県の皆さんにも持ち帰りたいと思っています。

結びに、本集会にお集まりの皆さんと、世界の恒久平和への想いを共有し、今後の運動につなげていくことを誓いあい、主催者を代表しての挨拶といたします。ありがとうございました。

以上